

令和7年11月吉日

各教育委員会教育長様
各学校（園）長様
関係者様

大田区立東蒲小学校校長 鈴木 裕二

令和6・7年度大田区教育委員会教育研究推進校

令和6年度大田区教育委員会独自教科新設に向けた研究実践校

令和6・7年度東京都教育委員会小学校教科担任制等推進校（小規模校におけるモデル推進校）

大田区立東蒲小学校 研究発表会 アンケートに関する事後回答

令和7年10月30日に開催した研究発表会には、多くの皆様に御来校いただきありがとうございました。

また、本校の取組などについて、アンケートに御回答いただきましてありがとうございました。これまでの本校の取組を顧み、今後の取組に生かしてまいります。アンケートの中に、御質問をいただきましたので、こちらにて回答させていただきます。拙い実践ですが、区内外の皆様の参考になれば幸いです。これからも試行錯誤しながら、よりよい学校を目指して追究を続ける所存です。これからも御指導・御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

※紙面の都合上、御質問内容が変わらない範囲で表現を一部変えさせていただいております。御了承ください。



第6学年の「大森麦わら細工」は「Aものづくり」のように思えたのですが、「B地域の創生」として取り上げた理由や経緯がありましたら教えてください。



御質問ありがとうございます。第6学年担任がお答えいたします。
豊富な歴史や文化財を有する大田区の特徴を守り、発展させるための取組の一つとして、「大森麦わら細工」の伝承をテーマとしました。

本校の児童の実態から、単元全体を通して魅力に触れながら学んでほしいと考えました。

コンセプトを「●●の文化財の魅力を伝えよう」とすると、ポスターや動画などを制作する活動となり、文化財の魅力に触れるのは単元の中で限定的になってしまう危惧がありました。

学習意欲の継続に寄与することに加え、大森麦わら細工の作り手となり、制作者の立場として伝承に参画できるようにしました。つまり、現代における実践者として伝承に携わることになります。こうした姿勢は、授業パートナーである「大森麦わら細工の会」から学んだことです。

当日配布しましたパンフレットのp.27も併せて御覧いただけますと幸いです。



児童が話し合いを行っている際、教員の介入が少なかったのですが、おたの未来づくりの授業で、どのような考えで机間指導をしていたのかを教えてください。



御質問ありがとうございます。まず、教員の介入が少なかったことについてですが、おたの未来づくりに限らず、「学びのコントローラー」を教員が握りしめずに児童に渡す授業を目指していることに関連しています。

教員が主導するばかりの授業でなく、教員がファシリテーターとなれるように日々心掛けています。

机間指導は、児童の学びの状況把握から始まりますが、タブレット端末の活用など、多様な学び方を自己選択・自己決定させるようになり、そのウエイトが従来よりも大きくなったと感じます。

今回のおたの未来づくりの授業では、相手意識やコンセプトとの合致、授業パートナーからの既習事項の活用、実現可能性、客観性といった話し合いの視点を定めました。話し合いがそれらの視点から外れた場合には軌道修正をし、話し合いが停滞しそうなグループにはそれらの視点を意識させる介入を若干行いましたが、児童が自ら考え、協働している場面では、把握に専念しました。学級全体に広められる質の高い学びを探しながら聞いておりました。

「話し合い方の指導」については、パンフレットのp.37、「学びのコントローラー」については、p.73も併せて御覧いただけますと幸いです。